

2013年3月期第2四半期 決算説明会

日本通運株式会社
代表取締役社長 渡邊 健二

I. 経営状況	P. 1-
II. 外部環境の変化	P. 10
III. 経営計画の進捗状況	P. 11
IV. 2013年3月期通期の業績予想	P. 12-
V. 海外物流会社のM&Aについて	P. 20

2012年10月31日

I. 経営状況

A. 2013年3月期第2四半期決算の概要

1) 概要 (連結)

(単位：億円、%)

	2013/3期 上半期実績 ①	2012/3期 上半期実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②×100	上半期予想 (5月8日発表) ⑤	差額 ⑥=①-⑤	率 ⑦=⑥÷⑤×100
売上高	7,987	8,019	△31	△0.4	8,100	△112	△1.4
営業利益	157	139	18	13.0	180	△22	△12.5
経常利益	206	190	15	8.0	220	△13	△6.3
当期 純利益	113	99	13	13.3	140	△26	△19.2

(億円未満切捨て)

2) 連結経営指標

第2四半期累計

(前期実績)

・売上高営業利益率	2.0%	(1.7% <2Q累計>)
・売上高経常利益率	2.6%	(2.4% <2Q累計>)
・ROE	4.7%	(5.7% <通期>)
・ROA	1.8%	(2.3% <通期>)

◇事業環境に関する認識と確認(経済環境)

欧州債務危機、海外経済の減速、円高の影響など、日本の国内外における外的要因が、わが国の景気の足元を脅かし続けた。

更に、尖閣諸島問題に起因し、中国各地で広がった反日デモは、9月18日を頂点に、一部が暴動化。日中摩擦により、日系企業の中国での生産・販売活動、また、日本と中国との間の貿易、観光などへ打撃。残念ながら、状況は悪化の一途をたどり、10月下旬には、自動車産業への影響も顕在化。景気が下押しされる懸念が急速に広まっている。

◇事業環境に関する認識と確認(物流業界の状況)

東日本大震災からの復興関連の需要も、なかなか目に見える形では現れず、国内貨物の輸送需要は、引き続き、低水準にあり、また、国際貨物の輸送需要を取り巻く環境も、厳しい状況。

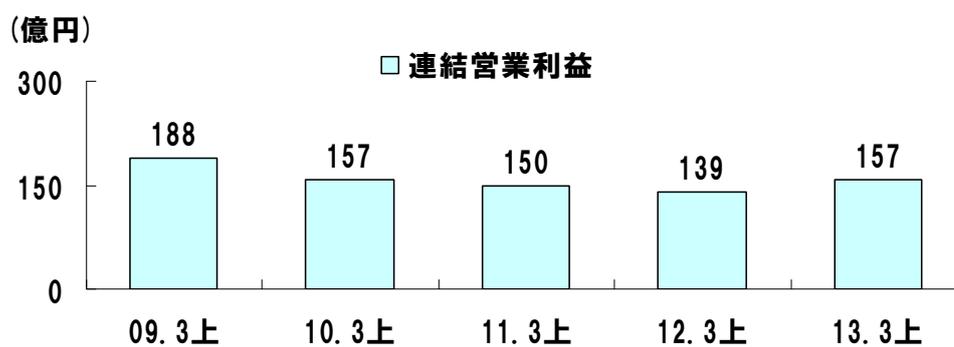
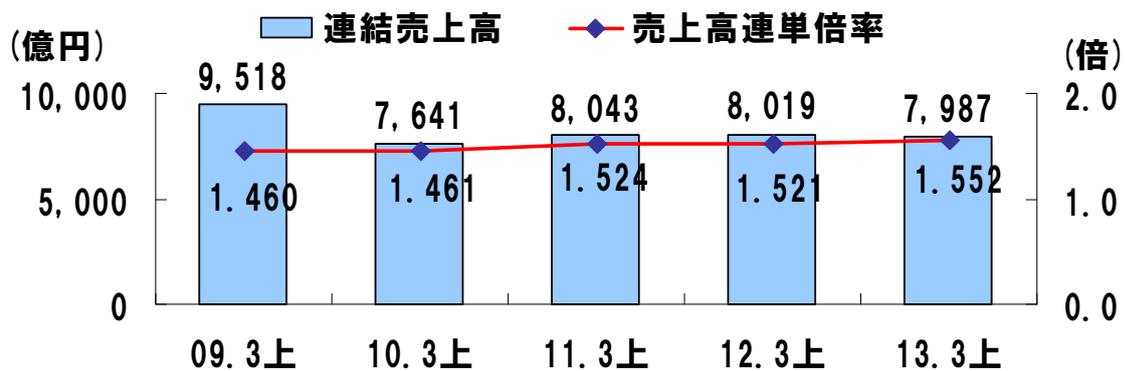
◇日本発着の輸出入貨物の環境

輸入・航空貨物の需要は、若干の回復傾向を見せたものの、輸出・航空貨物に関しては、欧州債務危機、円高などの影響を受け、中国を含む、アジア向けなどの一部を除いて、輸送重量の減少傾向に、歯止めが掛からず。中でも欧州向けは、前年比、上半期で34.6%の減、第2四半期3ヶ月間では36.6%減。

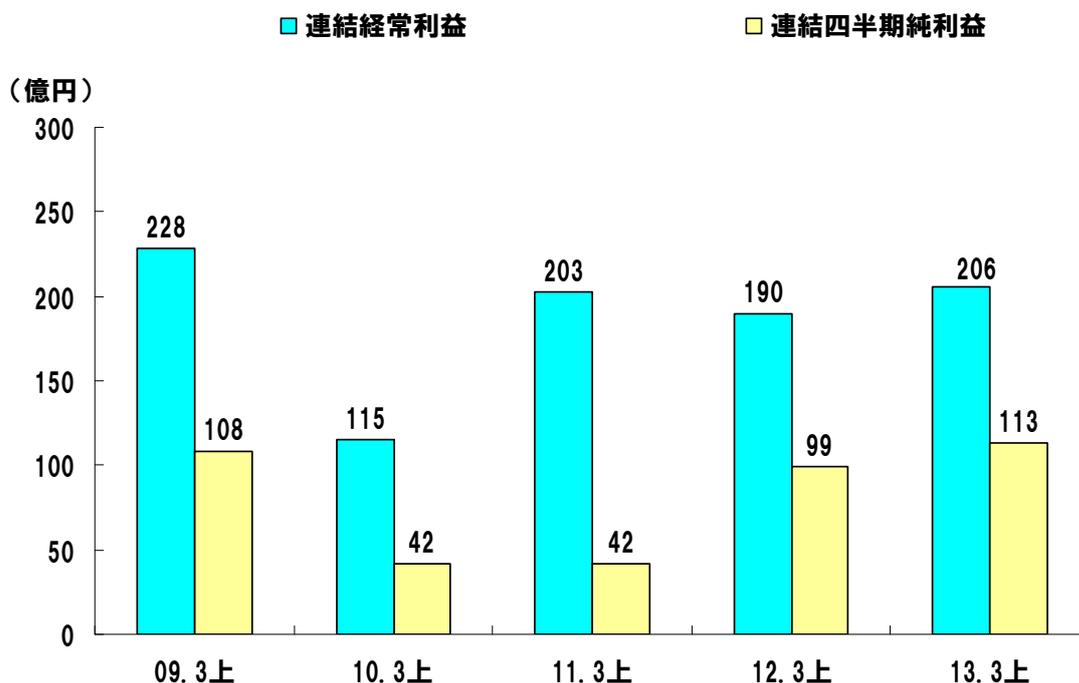
海運の輸入貨物の需要は、昨年の震災復旧の反動減もあり、軟調に、海運の輸出貨物は、主に、アジア向け設備輸送の需要を背景に、回復傾向を示す状況で、推移。

I. 経営状況

B. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



C. 直近5年間の経常利益と四半期純利益の推移



◇連結経常利益、当期純利益の推移

営業外収益、営業外費用は、前年と比べて大きな変化はない。

特別損失として、前年計上した米国司法省和解金の反動減があった一方、旅行事業の再編に伴い、転進支援措置を実施したことにより、「特別加算退職金」を計上。

結果として、特別利益、特別損失の額に、大きな変化はない。

I. 経営状況

D. セグメント別状況

1) 複合事業

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	3,460	3,500	△39.8	△1.1	3,518	98.4	△57.6
	セグメント利益	15	17	△2.5	△14.4	28	53.0	△13.3
2Q単四半期	売上高	1,737	1,766	△29.0	△1.6	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	10	9	0.8	9.0	0.6 (0.5)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> 企業物流需要が低いまま推移し、減収 費用抑制により、増益 						

2) 警備輸送

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	294	293	0.1	0.1	297	99.0	△2.8
	セグメント利益	9	11	△1.9	△17.7	9	93.2	△0.6
2Q単四半期	売上高	146	146	0.1	0.1	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	2	3	△0.2	△8.8	2.0 (2.2)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> 新規受注もあり、売上高は前年並みを確保 お客様からの合理化要請により、減益 						

※ 以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇複合事業

日本国内の企業物流の需要は、自動車産業など、ごく一部のお客様を除いて、非常に低い状態で推移。

各店所において、費用の抑制に努めた。

◇警備輸送

お客様からの合理化要請に対応をしてきた結果、利益率が低下。

I. 経営状況

D. セグメント別状況

3) 重量品建設

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	191	193	△1.8	△1.0	178	107.7	13.7
	セグメント利益	18	17	0.6	3.5	15	116.4	2.5
2Q単四半期	売上高	87	94	△7.5	△8.0	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	8	7	0.8	11.6	9.7 (8.0)		
	概況	<ul style="list-style-type: none">前年の震災復旧需要の反動減により、減収費用管理の徹底により、増益						

※ 以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇重量品建設

前年に、震災からの復旧、復興関連の業務を、多く受託していたことの反動減。

費用の管理を徹底した。

I. 経営状況

D. セグメント別状況

4) 航空

(単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比		
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	935	1,015	△79.8	△7.9	1,003	93.3	△67.6
	セグメント利益	18	12	6.6	54.0	25	74.9	△6.3
2Q単四半期	売上高	458	501	△42.8	△8.5	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	8	10	△2.3	△22.3	1.8 (2.1)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> 輸出入取扱重量の大幅な落ち込みにより、減収 距離の長い欧米向け貨物の落ち込みが、より大きいために減益 						

5) 海運

(単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比		
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	630	638	△8.5	△1.3	664	94.9	△33.5
	セグメント利益	30	31	△0.6	△2.2	35	86.9	△4.6
2Q単四半期	売上高	309	315	△5.5	△1.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	13	11	1.8	15.3	4.4 (3.8)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> 内航海運、海外引越は堅調、国内消費の伸び悩みにより輸入が減少 世界経済の減速を受け、大手のお客様を中心に出荷が伸びず、他方、アジア向け設備輸送需要を背景に、輸出は回復傾向 						

※ 以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇航空

日本発の輸出航空貨物の取扱い重量は、前年と比べ大きく減少。

(第2四半期、米州地域向けが約11%マイナス、欧州地域向けが約37%のマイナス)

航空利用費は、コントロールされた水準ではあったものの、長距離の欧米向け貨物の取扱いが、大幅に落ち込んだことにより、減益。

◇海運

内航海運、海外引越などは堅調に推移。

国内消費の伸び悩みを背景に、輸入は振るわず。

世界経済の減速を受け、大手のお客様を中心に、出荷が伸びず。

アジア向け設備輸送の需要を背景に、輸出は回復傾向。

I. 経営状況

D. セグメント別状況

6) 米州

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額	
上半期	売上高	260	214	46.2	21.6	247	105.6	13.8	
	セグメント利益	9	4	5.4	126.3	6	141.7	2.8	
2Q単四半期	売上高	142	110	32.0	29.0	2Q単四半期営業利益率(前年同期)			
	セグメント利益	5	3	1.8	48.0	4.0 (3.5)			
	概況	<ul style="list-style-type: none"> Associated Global Systems社が連結対象に 既存店ベースでも、航空・海運の輸出業務に加え、倉庫配送、自動車運送など、域内の業務が堅調で増収増益 							

7) 欧州

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額	
上半期	売上高	222	232	△10.2	△4.4	233	95.5	△10.5	
	セグメント利益	5	9	△3.6	△38.9	11	49.1	△5.9	
2Q単四半期	売上高	112	120	△8.2	△6.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)			
	セグメント利益	3	5	△1.9	△35.3	3.2 (4.6)			
	概況	<ul style="list-style-type: none"> 現地通貨ベースでは、増収減益 輸出航空貨物のスポット案件、比較的安定している倉庫配送業務が下支えとなり、増収 フォワーディング業務が低調で、減益 							

※ 以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇米州

Associated Global Systems社が、第2四半期より連結対象に。
ただし、既存店だけでも、増収増益。
航空・海運の輸出業務に加えて、倉庫配送、自動車運送など、
域内の業務が堅調に推移。

◇欧州

ユーロ安の影響が大きく、現地通貨ベースでは、増収、減益。
日本やアジアからの、航空・海運の輸入の業務は落ち込んだが、
輸出航空貨物のスポット案件と、比較的売上げの安定している
倉庫配送業務が下支えとなった。
全般的にフォワーディングが低調であったために、減益。

I. 経営状況

D. セグメント別状況

8) 東アジア

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	344	360	△15.8	△4.4	371	92.8	△26.7
	セグメント利益	7	7	0.1	1.5	10	78.7	△2.1
2Q単四半期	売上高	172	179	△7.2	△4.0	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	3	0.3	8.9	2.4 (2.1)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域経済の減速を受け、減収 ・ 費用の抑制により、増益 						

9) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	226	213	12.9	6.1	231	97.9	△4.8
	セグメント利益	10	5	4.7	84.2	7	140.5	3.0
2Q単四半期	売上高	111	106	4.5	4.3	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	3	1.4	44.9	4.3 (3.1)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 航空、海運フォワーディングのほか、自動車運送、倉庫配送など域内業務が好調 						

※ 以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇東アジア

航空利用費を一定程度コントロールでき、前年並み利益を確保。

◇南アジア・オセアニア

タイ、ベトナム、フィリピンで、航空・海運フォワーディングに加え、自動車運送、倉庫配送など域内の業務も好調。

I. 経営状況

D. セグメント別状況

10) 販売

(単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比		
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	1,837	1,772	65.2	3.7	1,788	102.8	49.6
	セグメント利益	32	30	2.0	6.7	31	105.0	1.5
2Q単四半期	売上高	917	903	13.9	1.5	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	12	10	1.5	14.3	1.3 (1.2)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> 石油類の販売数量が伸びたことにより、増収 輸出梱包業務の震災影響からの反動増があり、増益 						

11) その他

(単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比		
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	191	195	△4.3	△2.2	203	94.2	△11.7
	セグメント利益	6	5	0.9	17.6	7	82.9	△1.3
2Q単四半期	売上高	105	104	1.0	1.0	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	4	0.2	5.5	4.7 (4.5)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> (不動産事業) 震災復旧関連業務の反動減があったが、設計・監理業務が増加し利益確保 						

II. 外部環境の変化

増減要素

変動要素	連結（第2四半期累計）	参考
燃油費単価変動による影響	燃油費 $\Delta 1.2$ 億円 （費用減）	（前年同期） 軽油 : 105.85円/ℓ (107.65円) ガソリン : 137.55円/ℓ (139.31円) 船舶重油 : 61.59円/ℓ (60.85円)
為替（円高）による影響	売上高 $\Delta 41.5$ 億円 営業利益 $\Delta 1.6$ 億円	上半期平均為替レート（※）（前年同期） USD : 79.74円 (82.04円) EUR : 103.45円 (114.99円) HKD : 10.28円 (10.54円) RMB : 12.65円 (12.54円)

（※）上半期平均為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用している。

III. 経営計画の進捗状況

日通グループ経営計画 2012 -新たな成長へ- 基本戦略の進捗状況

基本戦略	項目	進捗状況
グローバルロジスティクス企業としての成長	2013年3月期 国際関連事業売上高 比率33%	2013年3月期上半期実績 30.5% (2012年3月期実績 30.8%)
	グローバル市場に おける事業展開	1) バングラデシュ日通設立 2) ウラジオストク(ロシア)営業所 ヤンゴン(ミャンマー)事務所 ヴロツワフ(ポーランド)事務所 開設 3) トルコ日通、IATA貨物代理店ライセンス取得 4) 日米欧13拠点で、温度管理コンテナ取り扱い業者 (QEP)の資格認定 5) 日通商事タイランド、ピントンロジスティクスサポートセンター 開設
戦略的環境経営の推進	CO2削減対策等の 着実な実行	新設物流拠点に、壁面太陽光発電設備、LED照明導入
経営基盤の強化	国内・海外各地の グローバル事業拠点の 機能整備	日通国際物流(中国)、「地域本部会社」として認定

◇グローバルロジスティクス企業としての成長

国際関連事業売上高比率

輸出航空貨物の荷動きが、大きく減少したこと、また、「海外会社」の売上高が、円高の影響により、目減りしたことにより、30.5%となった。

円高で目減りした分を戻した額で計算すると、31.6%になる。

IV. 2013年3月期通期の業績予想



A. 連結業績予想（修正後）

（単位：億円、％）

	2013/3期 業績予想 ①	前年同期対比			期首予想（5月8日発表）からの修正幅		
		2012/3期 実績 ②	増減額 ③=①-②	増減率 ④=③÷② x100	期首予想 ⑤	増減額 ⑥=①-⑤	増減率 ⑦=⑥÷⑤ x100
売上高	16,100	16,280	△180	△1.1	16,500	△400	△2.4
営業利益	330	374	△44	△12.0	420	△90	△21.4
経常利益	400	474	△74	△15.7	500	△100	△20.0
当期 純利益	200	269	△69	△25.8	300	△100	△33.3

◇修正に至った背景

欧州債務危機問題や、アジアを中心とした新興国の経済成長の鈍化によって、日本からの輸出貨物が、航空貨物を中心に大きく減少する状態が続く。

海外においても、世界経済の減速を受け、特に、欧州、及び、アジア地域で、売上高が当初の目論見よりも落ち込んでいる。
加えて、尖閣諸島問題に端を発する、中国での反日感情の高まりにより、現地における、企業の生産活動の低下が見られる。

これらの状況から、国際貨物の輸送需要は、今後、不透明感が強まることが懸念され、加えて、国内の企業物流需要に、震災の影響による落ち込みからの回復に向けた力強さは感じられず、低迷した状態が続くことが想定される。

下半期に、上半期の不足分を取り戻すだけの材料に乏しいことから、遺憾ながら業績予想を修正することとなった。

IV. 2013年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況 (修正後)

1) 複合事業

(単位：億円、%)

		今回予想	前年同期対比		修正幅			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	6,972	7,047	△75.1	△1.1	7,085	△113.0	△1.6
	セグメント利益	57	69	△11.7	△16.9	87	△29.7	△34.0
下半期	売上高	3,511	3,546	△35.3	△1.0	セグメント利益率の予想 (前年同期)		
	セグメント利益	42	51	△9.1	△17.7	通期0.8 (1.0)	下半期1.2 (1.5)	

2) 警備輸送

(単位：億円、%)

		今回予想	前年同期対比		修正幅			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	596	587	8.3	1.4	596	0.0	±0.0
	セグメント利益	19	18	0.2	1.1	19	0.0	±0.0
下半期	売上高	301	293	8.1	2.8	セグメント利益率の予想 (前年同期)		
	セグメント利益	9	7	2.1	28.1	通期3.2 (3.2)	下半期3.3 (2.6)	

◇複合事業

足元の状況でも、輸送需要の回復の兆しを感じられる状況になく、景気の先行き不安から、厳しい状況が継続するものと見る。

◇警備輸送

通期の業績予想数値を据え置いている。

IV. 2013年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況 (修正後)

3) 重量品建設

(単位：億円、%)

		今回予想	前年同期対比		修正幅			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通 期	売上高	363	400	△37.4	△9.4	374	△11.0	△2.9
	セグメント利益	30	38	△8.0	△21.2	35	△5.3	△15.0
下 半 期	売上高	171	206	△35.6	△17.2	セグメント利益率の予想 (前年同期)		
	セグメント利益	11	20	△8.6	△42.6	通期8.3 (9.5)	下半期6.8 (9.9)	

◇重量品建設

固定価格買取制度による風力発電関連の取扱いの増加は、来期以降になると見る。

政府のエネルギー政策に関する先行きの不透明感から、お客様も、本格的な投資判断をしにくい状況にあると見る。

IV. 2013年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況 (修正後)

4) 航空

(単位: 億円、%)

		今回予想	前年同期対比			修正幅		
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	1,825	2,054	△229.0	△11.2	2,005	△180.0	△9.0
	セグメント利益	35	65	△30.3	△46.2	63	△28.1	△44.3
下半期	売上高	889	1,038	△149.2	△14.4	セグメント利益率の予想 (前年同期)		
	セグメント利益	16	53	△37.0	△69.2	通期1.9 (3.2)	下半期1.9 (5.2)	

5) 海運

(単位: 億円、%)

		今回予想	前年同期対比			修正幅		
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	1,262	1,256	5.4	0.4	1,293	△31.0	△2.4
	セグメント利益	56	51	5.3	10.6	60	△4.5	△7.4
下半期	売上高	631	617	13.9	2.3	セグメント利益率の予想 (前年同期)		
	セグメント利益	25	19	6.0	31.3	通期4.5 (4.1)	下半期4.0 (3.1)	

◇航空

景気の先行きが見通せない環境のもと、輸出・航空貨物の数量は、このまま低位に推移すると見る。

特に、輸送距離が長い欧州向けの数量の減少が激しいことが影響。

◇海運

一般の輸出・商業貨物の動向には、不透明感が漂う。

航空輸送から、海上輸送への切り替えを進めるお客様の出荷や、海外移転を進めるお客様の設備輸送の需要を、しっかり、取り込むことにより、前年比で増収、増益を確保する。

IV. 2013年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況 (修正後)

6) 米州

(単位: 億円、%)

		今回予想	前年同期対比		修正幅			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	548	429	118.3	27.5	555	△7.0	△1.3
	セグメント利益	26	16	9.2	55.1	22	3.8	17.0
下半期	売上高	287	215	72.0	33.5	セグメント利益率の予想 (前年同期)		
	セグメント利益	16	12	3.8	30.5	通期4.8 (3.9)	下半期5.7 (5.8)	

7) 欧州

(単位: 億円、%)

		今回予想	前年同期対比		修正幅			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	435	464	△29.5	△6.4	477	△42.0	△8.8
	セグメント利益	12	18	△6.9	△36.7	21	△9.7	△44.7
下半期	売上高	212	231	△19.2	△8.3	セグメント利益率の予想 (前年同期)		
	セグメント利益	6	9	△3.3	△34.6	通期2.8 (4.1)	下半期3.0 (4.2)	

◇米州

引き続き、自動車産業関連のお客様の取扱いが、堅調に推移するものと見る。

◇欧州

域内の景気減速の影響を強く受け、航空、海運の輸入のフォローディングが苦戦。

域内の倉庫配送、自動車運送は、比較的堅調ではあるものの、全体を下支えするには至らず。

IV. 2013年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況 (修正後)

8) 東アジア

(単位: 億円、%)

		今回予想	前年同期対比		修正幅			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	672	729	△57.6	△7.9	772	△100.0	△13.0
	セグメント利益	16	23	△6.5	△27.9	29	△12.3	△42.1
下半期	売上高	327	369	△41.8	△11.3	セグメント利益率の予想 (前年同期)		
	セグメント利益	8	15	△6.6	△42.7	通期2.5 (3.2)	下半期2.7 (4.2)	

9) 南アジア・オセアニア

(単位: 億円、%)

		今回予想	前年同期対比		修正幅			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	458	448	9.8	2.2	486	△28.0	△5.8
	セグメント利益	19	16	3.3	20.5	20	△0.3	△1.5
下半期	売上高	231	234	△3.0	△1.3	セグメント利益率の予想 (前年同期)		
	セグメント利益	9	10	△1.3	△12.6	通期4.3 (3.7)	下半期4.1 (4.6)	

◇東アジア

欧州の景気低迷、中国の経済成長の鈍化が伝えられ、9月に入り、荷動きが急激に減速。

尖閣諸島の国有化を契機に高まった反日感情を背景に、日系のお客様に減産等の対応が広がる中、当社の取扱いも大きく低下。

◇南アジア・オセアニア

上半期は好調を維持してきたものの、その勢いは、9月に入り、「東アジア」の落ち込みに引きずられる形で、鈍化。

IV. 2013年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況 (修正後)

10) 販売

(単位：億円、%)

		今回予想	前年同期対比		修正幅			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	3,848	3,740	107.2	2.9	3,749	99.0	2.6
	セグメント利益	66	69	△3.3	△4.8	66	0.0	±0.0
下半期	売上高	2,010	1,968	41.9	2.1	セグメント利益率の予想 (前年同期)		
	セグメント利益	33	38	△5.3	△13.9	通期1.7 (1.9)	下半期1.7 (2.0)	

11) その他

(単位：億円、%)

		今回予想	前年同期対比		修正幅			
		13/3期	12/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	400	403	△3.6	△0.9	420	△20.0	△4.8
	セグメント利益	19	19	0.1	0.9	19	0.0	±0.0
下半期	売上高	208	208	0.6	0.3	セグメント利益率の予想 (前年同期)		
	セグメント利益	13	13	△0.7	△5.6	通期4.9 (4.8)	下半期6.3 (6.7)	

IV. 2013年3月期通期の業績予想

C. 外部要因の前提

	下半期 連結業績への影響	前提条件
燃油費単価変動 による影響	燃油費 Δ 2.3億円 (費用減)	(前期年間平均) 軽油 : 104.90円/ℓ (106.20円) ガソリン : 135.87円/ℓ (138.06円) 船舶重油 : 58.69円/ℓ (60.04円) 使用量は前年と同量と想定
為替による影響	売上高 +1.7億円 営業利益 +0.1億円	(前期年間平均 ^(※)) USD : 79.37円 (79.85円) (77.41円=4Q) EUR : 101.75円 (111.12円) (104.33円=4Q) HKD : 10.23円 (10.26円) (9.95円=4Q) RMB : 12.56円 (12.35円) (12.20円=4Q)

(※) 前提となる為替レート及び前年同期レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地四半期実績に適用している。

◇為替

前年第4四半期(10月～12月)の間に、特に、円高が進行していたことの反動で、下半期は、若干のプラスの影響があると想定。

V. 海外物流会社のM & Aについて



1. 対象会社	APC Asia Pacific Cargo (H.K.) Ltd. (1980年設立)
2. 代表者	Bengt Sjöberg
3. 資本金	1.1百万香港ドル (約11百万円)
4. 事業内容	フォワーディング事業(航空・海運)、ロジスティクス事業
5. 主要顧客	アジア～欧州間の輸送に強み アパレル、化粧品業界など幅広い顧客層を持つ
6. 財務状況	2011年12月期連結売上高 938百万香港ドル (約9,667百万円) 従業員数 約380名
7. 買収後の株主構成	香港日本通運株式会社 100%
8. 買収日	2012年10月30日

当社は、今後も、多様化するお客様のニーズにお応えするため、グローバルロジスティクス企業としての成長を加速させ、高品質なサービスの拡充に努めてまいります。

◇M&A

輸送レーンの面でも、顧客層の面でも、当社とは相互補完の関係にある。
引き続き、成長が期待されるアジア市場において、当社グループの競争優位性を確保し、経営基盤の強化につながるものと確信。



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。